

議会

だより

85

12月定例議会号

平成23年2月

発行 佐呂間町議会



わーい、あそこに当たったよ！ 「若佐元気屋台村/射的コーナー」1/9撮影

12月定例会	審議した議案 2～4 P	町長行政報告 5 P
	一般質問「平成23年度予算編成概要について」など4名の議員が質問	6～9 P
第5回臨時会	審議した議案 10～11 P	町長行政報告 11 P
議会ニュース	道外行政調査・視察研修報告 12～15 P	
	常任委員会現地調査 16～17 P	
あとがき	18 P	



さろま

あなたと町議会を結ぶ情報誌

佐呂間町URL <http://www.town.saroma.hokkaido.jp/>

「議会だより」は再生紙を使用しています

第4回定例会

第4回定例会が12月16日と17日の2日間で開催され、一般会計と5特別会計の補正予算のほか議案等審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。

・審議した議案

21年度分の厚生病院運営損失負担金

2610万円を追加して合計8690万円に！

TMRセンター等の工事費に国の交付金3235万円！

審議した議案

予算

<p>□平成22年度佐呂間町一般会計補正予算(第7号)</p> <p>8743万円が追加され、予算の総額が46億3123万円になりました。</p> <p>【主な歳入】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方特例交付金 606万円 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 3235万円 地域政策総合補助金 288万円 財政調整基金繰入金 1億454万円減 国鉄湧網線代替輸送確保基金繰入金 1692万円 	<p>・前年度繰越金 1億3274万円</p> <p>【主な歳出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 給料 1120万円 職員手当等 250万円 共済組合負担金等 コミセン修繕料 1767万円 コミセントイレ改修工事 1110万円 佐呂間厚生病院運営損失負担金 2610万円 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 3235万円 牧場利用委託料 161万円 若佐小学校教室改修工事 460万円 佐呂間町介護サービス事業特別会計繰出金 1389万円 	<p>□平成22年度簡易水道特別会計補正予算(第3号)</p> <p>183万円が追加され、予算の総額が5億3166万円になりました。</p> <p>【主な歳入】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度繰越金 183万円 <p>【主な歳出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 浜佐呂間簡易水道区域拡張事業費負担金 106万円 	<p>□平成22年度国民健康保険特別会計補正予算(第3号)</p> <p>147万円が追加され、予算の総額が9億1970万円になりました。</p> <p>□平成22年度介護保険特別会計補正予算(第2号)</p> <p>254万円が追加され、予算の総額が5億4265万円になりました。</p> <p>【主な歳入】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度繰越金 254万円 	<p>【主な歳出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高額介護サービス費 234万円 <p>□平成22年度介護サービス事業特別会計補正予算(第2号)</p> <p>1389万円が減額され、予算の総額が2億3843万円になりました。</p> <p>【主な歳入】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般会計繰入金 1389万円減 <p>【主な歳出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 給料 800万円減 職員手当等 619万円減 共済組合負担金等 440万円減 代替人夫賃等 234万円 特別養護老人ホーム自動食器機洗浄機設置工事 189万円
--	--	---	--	--

選挙

第4回定例会

・ 審議した議案

□ 佐呂間町選挙管理委員会
委員及び同補充員の選挙
について

選挙管理委員会委員及び同
補充員の任期満了に伴い、選
挙の結果、次の方が当選され
ました。

委員

- ・ 仁 倉 内 藤 学 峰 氏
- ・ 永代町 榎 本 彰 氏
- ・ 若 佐 寺 本 孝 昭 氏
- ・ 浜佐呂間 藤 原 一 成 氏
- 補充員（順位）
- 共 立 八 矢 憲 一 氏
- 永代町 佐 々 木 益 弘 氏
- 若 佐 宇 佐 美 照 子 氏
- 浜佐呂間 村 岡 忠 氏

報 告

□ 道外行政調査並びに視察
研修報告

（報告内容12～15頁に掲載）



補正予算・議案 質疑の中から

佐呂間町では小学校1年生の
30人学級は継続実施!

◎ シカ駆除について

【質】シカの捕獲報償費を増額したが、来年の雪解け時期がくると、また農作物の被害が出るだろうと当然予想されるが、囲いを作るとか、撃つ以外の対策はないものか。また、シカ対策について、近隣町村との協議は進めているか。

【答】エゾシカの駆除対策で撃つ以外の方法は今のところ考えていないが、猟友会と検討しているのが、ただ探して撃つのではなく、人里はなれた安全な場所にえさを仕掛けて、そこで捕獲をすれば効率的な駆除ができるのではと考え、中部森林管理署等の関係機関と協議をしていきたい。近隣町村との直接、協議の場はないが、担当者、担当課長レベルでは話し合いはしている。

◎ 少人数学級について

【質】来年度から小学1年生は35人の少人数学級で、との新聞報道があったが、町単

独でやっている少人数学級は継続されるのか。

【答】今回国で言っているのは35人学級だが、うちの1年生は32、33人ぐらいで該当しない。

町で考えているのは、最近LD、ADHDなどの障害を持つ子も多く、一つの学級に30人以上いるのは大変だというので、1年生に限りクラスを分けたいと考えている。

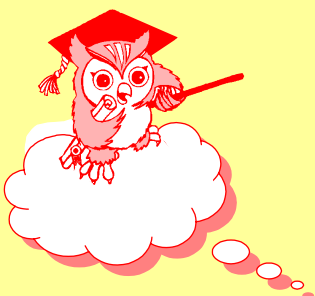
◎ 特養の待機者について

【質】念願がかない10床増床となった特養だが、待機者は解消されたのか。

【答】現在62名入所で、待機者名簿には23名載っているが、今その方々は施設や病院に入っているか、自宅待機でも家族がお世話できるとい方たちである。

待機者の入居については、入居判定委員会があって、そこで事前に順番を決定しており、順番がきたら、再度家族の意向を伺って、入居を決定することに。

議会だよりに対するご意見・ご感想を
お寄せ下さい!



--- 議会事務局宛て ---

TEL 2-1291

Eメール

gikai@town.saroma.hokkaido.jp

第4回定例会

・ 審議した議案

**第4期佐呂間町
総合計画基本構想
を議決!**

その他

□第4期佐呂間町総合計画
について

町が「まちづくり」を進める
ために策定する総合計画基本
構想については、国が定める
地方自治法の規定により議会
の議決が必要となります。

平成23年度からの10年間
を計画期間とする第4期の佐
呂間町総合計画については、
9月14日開催の第3回定例会
において提案され、町総合計
画審査特別委員会に付託され
ておりました。

11月25日に同委員会を開
催して審査を行い、委員会と
しては原案のとおり決定する
ことになりました。

その結果、定例会において
小松正義委員長より審査報告

書が提出され、改めて本会議
で審議を行い、総合計画につ
いては全会一致で原案のと
おり可決となりました。

佐呂間町過疎地域自立促
進市町村計画の変更につ
いて

過疎地域自立促進特別措置
法が改正され、今年度より6
年間の計画期間の延長となっ
たことから、計画の内容とし
ては、81事業で87億6763
万円の計画が掲載された佐呂
間町過疎地域自立促進基本計
画が可決されました。

意見書



□大幅増員と夜勤改善で安
全安心の医療・介護を求
める意見書の提出につ
いて

長寿世界一を誇る日本の医
療は、長年にわたる社会保
障費抑制施策の下でも、医師や
看護師などの懸命な努力で支
えられてきました。

しかし、医療現場は長時間・
過密労働により離職率の高い
状況にあり、これが原因で深
刻な人手不足につながる悪循
環から、医療現場の努力だけ
では、日本の安全安心な医療・
介護を守ることは困難になっ
ています。

看護師など夜勤交代制労働
者の労働条件を抜本的に改善
することを要望する意見書が
可決され、関係大臣宛提出
しました。



第1回定例会は3月に開催されます!!

日程の詳細は、町広報3月号の折込みチラシを
ご覧いただき、是非傍聴にお越しください。



第4回定例会

町長より行政報告がなされました。
(内容は要約して掲載しています。)

・町長行政報告

町長行政報告 (要旨)

□平成22年度の農業情勢について

春の雪解けの遅れ、低温などが作物の作付けや生育に悪影響となり、6月に天候は回復したものの、その後異常的猛暑により作物全般に大きな被害が生じました。

主力作物の秋まき小麦は、成長期の異常高温により不稔や未熟粒が多発したため、平年を大きく下回る収量となり、ビートについても、高温多湿の影響で褐斑病の多発と糖分低下(16%程度)から、販売額も大きく減収となりました。

農協の22年度農産物販売計画15億2千万円に対し実績約15%減の12億8千万円程度の見込みですが、小麦、ビートの主力作物については、全量

農業は異常気象にもかかわらず計画販売額を達成!

が共済金の対象となり、平年作からの減少分の9割が補填される見通しです。

畜産関係では、配合飼料や生産資材価格の高止まりに加え本年乳価が値下げとなり、経営は不安定状況にあります。また、口蹄疫の侵入防止の防疫対策など嚴重な対応に追われました。

このような中、生乳生産は、夏場の猛暑にもかかわらず目標4万5500トンを若干下回る4万5100トン程度と、酪農家の努力により搾乳戸数の減少分をほぼ補える予想で、更に来年度の生産枠確保のため一層の増産に期待するところです。

酪農畜産の販売額は、肉素牛(F・1)の固体販売が順調に推移、計画58億4千万円に対し実績61億2千万円との見込みです。

自給粗飼料のデントコーンは、すず紋病の発生でサイレージ品質や栄養価などへの不安要素もあり、牛の体調管理を含め、生乳生産の動向に

注視が必要です。

農業販売額全体では、73億6千万円に対し実績74億円程度と農作物減少分を畜産販売で補う結果となりました。

□漁業について

外海ホタテ漁は、12月22日までの操業で計画9050トン、キコ単価90円に対して11月末9852トン、キコ単価105円と計画達成の見込み。乾貝柱の製造数量は、歩留まりの低下により当初の計画達成には至らず。

養殖ホタテは、1850トン、キコ単価170円の計画に対し水揚げ2030トン、キコ単価315円と大幅高値となり、養殖ホタテの大型なサイズに需要が集まったと見えております。

養殖力キは例年並。

さけ定置網漁業は、来遊予想に反し1751トン、金額で5億1500万円の漁獲高となり、昨年比179%増と過去最高の水揚げです。

本年の総水揚げ額は計画対比137%増の26億円強が見

込まれています。

□公共事業の執行状況について

地域活性化、きめ細かな臨時交付金事業では一般会計、特別会計合わせて28件、事業費1億1107万円で完了しました。

本年度当初予算での主な工事と委託については、全て発注済で一般、特別会計合わせて52件、事業費5億6690万円です。

工事の進捗状況は、浜佐呂間簡易水道区域拡張工事5件と町道改良舗装工事2件を残すのみとなっております。

道管土地改良事業は、浜幌地区の営農用水事業が3月通水開始を目指し工事が進められ、旧北富地区営農用水事業も改修工事に着手。基幹水利ストックマネジメント事業、草地整備事業サロマ地区についても順調に工事が進められました。

町有林事業は、執行予定分の工事は全て完了しております。

第4回定例会

4名の議員が理事者の考えを質しました。

・一般質問

一般質問



小松正義 議員

平成23年度予算編成概要について

【質問】

平成23年度予定される主な重点施策と、予算規模さらに産業振興を図る上でT P Pに關係する予算を計上する考え方について伺います。

【答弁】（町長）

平成23年度の予算編成は、新年度からスタートする第4期佐呂間町総合計画を基に、限られた財政の中で取りまとめ、主要な事業施策は、ハード事業については、継続事業となっている道営草地事業や中山間地域総合整備事業（北富営農用水）、漁港改修事業、地方道路整備事業等を計画し、新規としてJ Aサロマガが本年度から取り組んでいる農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業（T M R、麦乾燥貯蔵施設）、畜産担い手育成総合事

23年度の重点施策、予算規模は？

町長、継続事業、新規事業等合わせて一般会計で60億円程度の予定。

業（酪農家法人施設）、若佐第一団地の建替え等を計画し、ソフト事業では3年目となるプレミアム付全町共通商品券発行事業を継続して取り組ませていただきます。

予算規模は、一般会計全体で60億円前後の予算が予想されるということです。特別会計は大きな増減額となる事業の予定はなく6特別会計全体で25億円前後で一般、特別会計を合わせ85億円を見込んでおります。

T P Pは地域経済、社会に大打撃を与えられると考えられ、地区農協組織などで反対運動や決起大会が開催されるとともに、市町村議会ではT P P反対の意見書が可決されるなど、地域の問題として運動展開しているものと思っております。

現在のところ、国の動向が見えず、予算等のことは考えていないのが事実です。この

件につきましては今後も道、市町村、関係機関とともに協力し対応してまいりたい。

【質問】

町の産業基盤である第1次産業施策について伺います。

【答弁】（町長）

麦の乾燥施設を集約しようという事業、T M R事業の計画もあり農協から町の応分の負担もいただきたいということだが、将来的な部分で佐呂間町の農業の起爆剤になるか等慎重に検討させていただいております。

平成23年度は重要な年度と位置づけ、産業全般を含めた底上げを対応したいと考えている。

【質問】

平成23年度の町税収入と交付税の見通しについて伺います。

【答弁】（町長）

23年度の税収は、22年度当初予算計上を若干上回る5億

6千万円程度見込んでいます。交付税は10月の国勢調査で、5年前に比べ5百人程度が減少し、交付税算定の中では、人口割が一人当たり15万円程度の算定となり、推定人口減に伴い7千5百万円減の23億6千万円程度と推計しています。

また、地方交付税が8%減額する案もあり、本町では2億円程度の減額が予想され、全道挙げて阻止に向けて努力したいと考えております。

【質問】

財政指数、町債残額、財政調整基金を含む各種の基金がどのように変化すると予測するのかを伺いたい。

【答弁】（町長）

健全化比率4指標でありますが佐呂間町は黒字財政で現在のところ比率はあらわれていませんし、町債残高も23年度末には79億8千万円まで下げたいと思っております。

財政調整基金等を含めた基金は21年度で一般、特別会計を合計して39億8千万円、22年度末は42億3千万円を予定しており23年度以降については、交付税や事業を見込み横ばいの金額という考え方を持っています。

第4回定例会

・一般質問



三田真美議員

町のHP

について

【質問】

佐呂間町のHP（ホームページ）は、昨今のインターネット時代においては町の顔といえます。案内のツールにしても重要なHPは、何年もの間変わらず、町民からもっと見やすいものにした方が良くという声を聞きます。

佐呂間町の人口数も現在の正確な数もわからなく、町の情報の発信が遅れているといわざるを得ません。美幌町はHPで議会的一般質問の様子を町民にすぐ見てもらえるなどの取り組みをしているところもあります。

現在のHPの運営は委託しているのか、また、委託料はい

町のホームページを

見やすいものにしたい！

町長くホームページは23年度から

更新したいと考えている。

くらののか？

町民にHPの公募をしてコンペなど住民参加型にしてはどうなのでしょう？伺います。

【答弁】（町長）

平成8年に開設したHPは15年が経過しており、わかりにくいところや情報が不足する部分があることは認識しておりますが、各課等の最新の情報など経費をかけずに取組んできました。

HPの果たす役割は大きいものと考えていますので、現時点までの問題を分析し、利用者の視点に立った上で、時代に即したものを検討中です。

23年度からの第4期総合計画に合わせ計画の進捗状況や町の状況がわかる、誰からも

興味をもたれる斬新な、佐呂間町らしさを表現するものに

23年度より更新していきたいと考えています。

また、運営については、職員

で対応できない部分は業者に年額20万程度で委託しています。コンペの件は町内でやっている人の協力を仰いでいき、観光協会などの関係機関と連携もしていきたいと思っています。

廃校活用

について

【質問】

廃校になった旧若里小学校は、市街地区から比較的近く、築年数も経っていないことから再利用して宿泊できる施設にし、スポーツ合宿や通学合宿、または産学官の勉強の場としてリニューアルしていく考えはありますか？

【答弁】（教育長）

若里小学校については、まだ使用できる校舎であることから様々な観点から活用することを検討してきましたが、財政的な事情から解決策がない状況です。

スポーツ合宿としては、体育施設が充実していなく、町外からの誘致が難しく、通学合宿は会館などの利用、産学官の勉強の場は他の施設を使うことでよいのかと思います。

また、他の使用していない廃校舎については解体する方向で考えています。



第4回定例会

・一般質問



安田 一彦 議員

TPPが実行されたときの 佐呂間町の影響は！

町長く国の方針が決まらない現状では、
影響額等は出せない。

TPP(環太平洋戦略的連携協定)が 実行されたときの佐呂間町の影響について

【質問】

11月10日の新聞報道でTPP実行時には道内で影響度合が一番大きい町(86.2%)として佐呂間町が紹介されたが、今後の町政執行はTPPを議題とした会議をどのような形で何回開催したかを知らせてください。

【答弁】(町長)

一次産業、町、自治体の崩壊につながる恐れもあり、国の動向を注視し、町単独じゃなく、管内または全道組織の農業、漁業、森林組合で協議し対応をしたい。今私が団体、町民の八方を集めたとしても説明する用件がございません。

【質問】

TPPが実行されたらどれだけの影響が町にあるか、数字を試算したのであれば伺い

ます。

【答弁】(町長)

現段階では影響額の算定はしていません。道、管内の影響額の数字だけが一人歩きをし、正式な算式ルールは出ていません。農業生産額に単純に86.2%をかけると60億以上の額となります。

【質問】

関連ある流通業、建設業、商工業も打撃を受けるので、正式なルールがなくても他市町で影響額を数字で示している。当町も数字で示すべきと思うが。

【答弁】(町長)

農業の分だけを出せるが他の数字が出ない。議会の中で金額を表明して何になるか私にはわからない。道、管内に問い合わせたが、

関連産業の数字の出し方がわからないとこのことで金額は出さないほうが良いと判断した。

【質問】

11月6日の道、11月10日の管内でした試算は、計算式のルールのない中で数字だということなのか。

【答弁】(町長)

全くわからないのです。農業や漁業が何戸やめるとい判断ができますか。

数字については言及を差し控えたい。

【質問】

TPPが実行されると農、林、水産業にとどまらず関連産業等に影響が出ると想定をしていますが。対策はどう考えますか。

【答弁】(町長)

関連産業については、森永を含め大きな影響があるものと思う。今現在何もわからない

い状況の中難しいが、TPP交渉が実行されぬ様反対運動を進めていくことが必要と思う。

【質問】

TPP問題は全町民、全産業者が参加のもとTPPに対する知識を共有する必要があると思うがいかがですか。

【答弁】(町長)

今後の動向をつかみ関係団体と一体となり協調し、適切に対処したい。

【質問】

比率が一番高い町として何らかのアクションを起こす必要があり、「TPP交渉、断固反対」する事も町民としては行政に期待するところと考えるがいかがですか。

【答弁】(町長)

やるべき時期になれば、大きな枠組みの中で動き、断固反対をしていく。

【質問】

今までの質問の答えとしてTPPについては当分静観し、成り行きに任せると受け止めてよろしいですか。

【答弁】(町長)

各団体広報誌にTPPの状況が出ているが、行政の広報誌に出すことが良なのかどうか、静観という形でなく、情報を収集し、来るべきときは行動すると言つ事です。

第4回定例会

・一般質問



但木早苗議員

プレミアム付商品券発行について

【質問】

9月に引き続き質問をしますが、私は発行について決して反対しているわけではありません。町内購買に大きな効果があることも承知しております。

ただ、5年間やると言ったその方法について、このままでいいのかという思いでこれまで質問してきました。

さて、9月での答弁でこの取り組みがいいのかも含めてその検証を11月までの間に考えるとのことでしたので答弁をお願いします。

継続できる商品券の取り組みとして、町が行っている太陽光発電、住宅促進事業の補助事業、あるいは子供の医療費の無料化を商品券に振り替える考えについてお伺いしま

プレミアム付商品券を太陽光等の補助金に利用できないか！

町長へ補助分を商品券にかえても消費循環にはつながらないと考える。

す。

【答弁】（町長）

使用割合が多いのは食料品が一番多く、全体の半分以上が町内で動いています。食料品は、町外流出も多いことからプレミアム付商品券の発行は、町外流出を止め町の商店街消費に結びつけている事が確認されています。

町の経済対策の中でやっている補助金についての部分を商品券にかえて出す事は、循環にもならないので考えては

水道料金の見直しについて

【質問】

平成21年5月分から料金改定が行われたところですが、今町は一人暮らしや高齢者世帯が増加、加えて非正規雇用の若年層も増えている中

で、一人暮らしの人たちの水道使用量を調べると7〜8トンでした。

生活を応援するためにも現在の水道料の基本水量及び基本料金、それに伴う超過料金の見直しが必要と考えますがお伺いします。

【答弁】（町長）

水道料金を改定してまだ2年目です。滞納が今現在ない状況の中で、支払いに困難を生じているとは思っておりません。

今までの使用水量から町が出した平均が概ね10トン以上ですので、10トンに決めさせ

国保の広域化について

【質問】

先般、国保の広域化2018年度からの報道があった

ところですが、この広域化、後期高齢者医療制度に変わる新制度として打ち出し、市町村ごとの保険料格差縮小や財政運営のためとのことですが、一般財源の繰り入れをなくす方針の広域化では、保険料の引き上げ、受診抑制等を招く事につながる危険さありま

す。
住民の福祉増進という自治体の目的から離れる心配のある広域化に対し、町としてどの程度話し合いが行われているのか、また、首長アンケートが行われたとのことですが、町長が広域化に對しどう考えているのかお伺いします。

【答弁】（町長）

この案は、後期高齢者医療制度改革会議が提案したもので、この案に全国知事会が反対姿勢を上げ、与党、日本医師会、経済界などからも反対の声が上がっています。

町としては、道からの情報も一切ない状況にあり、厚生労働省のホームページや専門情報誌等から情報収集をしている現状です。

首長アンケートは国保の広域化の推進に對し賛否を問うもので、私は賛成と答えさせていただきます。

第5回臨時会

第5回臨時会が11月25日に開催され、条例改正のほか6件の議案審議を行い、原案のとおり可決しました。

・審議した議案

第5回臨時会 11月25日開会

審議した議案

特別職、教育長、一般職、

町議も期末手当は年間で

3.95か月分に減額!

条例

- 特別職の給料額及び旅費額並びにその支給条例の一部を改正する条例制定について
- 佐呂間町教育委員会教育長の給料額及び旅費額並びにその支給条例の一部を改正する条例制定について
- 職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定について

人事院勧告に基づき、公務員給与と民間給与の格差を解消するため特別職、教育長及び一般職の期末手当の支給月数を国家公務員と同様に年間で3.95ヶ月とする引き下げを行い、更に40歳代以上の中高年齢層の職員給与を平均0.1%引き下げなどの条例改正を行いました。

□佐呂間町歯科診療所設置条例の一部を改正する条例制定について

旧若佐診療所を改修して、その場所に若佐歯科診療所が移転し、12月7日から診療を

開始することから、設置条例にある歯科診療所の住所地番を改正するものです。

□佐呂間町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定について

町職員と同様に、人事院勧告に基づき、期末手当の支給月数を国家公務員に合わせ、年間で3.95ヶ月分に引き下げるための条例改正を行いました。

その他

□専決処分の承認を求めることについて

平成22年度佐呂間町一般会計補正予算(第6号)の専決処分について承認しました。

654万円が追加され、予算の総額は、45億4379万円となりました。

(主な歳入)

・普通交付税 218万円

・廃材処理手数料

436万円

(主な歳出)

・廃材等処理委託料

654万円

意見書

□国土交通省「北海道局」の存続要望に関する意見書の提出について

国土交通省が打ち出した北海道局の廃止については依然として低迷している北海道経済、遅れている社会資本整備面等からも与える影響は大きなものがあり、慎重な検討が必要と考える。

北海道局は、安心・安全な食料の提供や自給率の向上や、また地球温暖化に対応した役割を担っており、また北海道開発の基本的な枠組みを堅持する等のためにも、北海道局の存続を強く要望する意見書が可決され、衆参両院議長ほか関係大臣宛に提出しました。

第5回臨時会

- ・審議した議案
- ・町長行政報告



□政府のTPP交渉への参加に関する意見書について

北海道農業は、国の政策目的に沿った構造改革を推進し国民への食料安定供給を図り、食料自給率の向上に寄与している。

しかし、WTO・EPA交渉による国際化の進展、国際的な食料需給の逼迫や価格の不安定化、肥料や飼料をはじめとする生産資材価格の高止まりなどにより、農業・農村を巻き込む状況は大きく変化し、農業経営の持続的発展が懸念される状況にある。

TPPに参加することになれば、食料自給率は14%に落ち込み、国内農業のみならず関連産業も壊滅的な打撃を受けることとなる。

したがって、我が国の食料安全保障と両立できないTPP交渉への参加は、認めることはできないものであり、持続可能な北海道農業の確立を図るため、国際貿易交渉に当たっては、日本のこれまでの

基本方針を堅持しTPP交渉への不参加も含め、国内農業・農村の振興を損なわないよう対応し、EPAにおいては、米や小麦、でんぷん、砂糖、牛肉、乳製品等の重要品目を関税撤廃の対象から除外し、適切な国境措置を確保することを強く要望する意見書が可決され、衆参両院議長ほか関係大臣宛に提出しました。



議案質疑の中から

◎職員給与の引き下げについて

【質】人事院勧告に基づく職員給与の削減は、子育て世代などは大変だと思いが、町の税収への影響はどうか。

【答】全体の支給額では、給料で130万円、ボーナスで1160万円ぐらいの削減になるが、大体平均で10%が税金と考えると110〜120万円ぐらいの税収が減るので

はないかと考える。

◎旧北斗林産跡地の廃材処理について

【質】旧北斗林産の廃材処理は3者でとのことだが、その経過は。

【答】専決処分で補正した廃材処理費は、入札の結果589万5千円となったが、その費用は関係する3者で3等分して負担するとして、町と楠瀬さんと、幸松さんの間で協議が整っている。

すべての事業が完了したら早急に請求書を発布して、納付していただくことになっている。

町長行政報告 (要旨)

□ふれあいバスの運行開始について

9月末をもって網走バス、北見バスの両社が運行する全てのバス路線が廃止となることから9月30日に廃止セレモニーを実施したところです。

民間バス路線に代わる本町独自のバス路線網「佐呂間町ふれあいバス」の運行が10月1日より開始され、当日の出席式には多くの関係者が出席されて晴れやかな出発式となりました。

10月は町内路線で延べ7134人、町外3路線では延べ345人の方が利用されており、各路線とも通院などの利用が増える傾向と聞いております。

年度末の運行についてはPTAや自治会と協議しながら児童、生徒の通学状況に合わせて運行経路などを決めることとしており、町外路線についても利用者のご意見などを参考に、必要に応じて見直しを図って参る考えです。

安全や利便性の向上に配慮して、より一層多くの方に利用していただけるよう努めて参ります。

議会ニュース

11月14日から17日にかけて、9名の議員が道外行政調査視察を行い、第4回定例会において報告がなされました。

(掲載内容は報告書を要約したものです)

・道外行政調査
視察研修報告

道外行政調査・視察研修報告①

高知県土佐



土佐町議場にて説明を受ける

として平成17年度より町単費で土佐町林業担い手対策事業を導入。

林業担い手対策事業は、5年間の継続事業で1年につき3名分、計15名分を予算化した。1名あたり1カ月5万円を支給。

2. 森林管理について

林家数 269戸
林業就業者数 80人
保有山林面積 9.78ha

土佐町では5カ年で2,273ヘクタールの間伐を目標としている。

森の工場という事業で団地化を図り、現在5団地で499ヘクタールを施業。

香川用水水源の森保全事業

早明浦ダムの利水地域の香川県から森林整備のため、れいほく5町村に3年間で上限1億円の補助金が出ている。

21年度実績

・間伐事業 240ha
補助金額 465万5千円

・作業道開設 7,853m
補助金額 207万2千円



早明浦ダム

地場材販売事業

れいほくスケルトンのモデル住宅

嶺北地域のスギ材を使用し、柱や梁桁の骨組みを見せる構造材を使ったモデル住宅。

若者定住促進として9棟建てているが、今後は高齢者向けの住宅も考えている。

環境保全型農畜産業振興

法規制により、酪農家の堆肥の野積みができなくなった

ことから、平成12年に堆肥センターを建設することになった。

堆肥センターの管理運営は、土佐町酪農業協同組合に委託しており、人件費は基本的に売り上げで賄うとしているが、実際は賄え切れず町で100〜200万円程度負担している。

減農薬等を利用し、環境に配慮した取り組みで平成14年にISO14001を取得、環境保全型農業ということで、平成18年には日本農業大賞も受賞している。

土佐町堆肥センター

1. 堆肥センターの概要

- (1) 事業主体 土佐町
- (2) 竣工 平成12年5月
- (3) 同年7月堆肥の製品化開始
- (4) 総事業費4億4千万円

特徴 ・発行能力が高く、短期間(25日)で堆肥化が可能
・高温発酵期間が長く(80度以上で7〜10日)で完熟堆肥ができる

議会ニュース

・道外行政調査
視察研修報告

土佐町

(高知県土佐郡)

人口4,436人

平成22年9月末

面積212.11 km²

・家畜排せつ物以外のあらゆる有機物に対応できる
・施設が発酵槽、攪拌機、プロワームのみでシンプル
・土佐町酪農業協同組合へ委託している
(土佐町酪農業協同組合職員2名が常駐勤務)
・光熱水費、需用費、修繕料等は行政負担
2. 堆肥の製造について
・搬入
原料内訳 牛糞(97%)
その他(家庭の生ごみ等)
利用農家(和牛・酪農)
12戸 約700頭
処理料: 150円/トン
生ごみ委託収集戸数77戸: 週2回
3. 堆肥製品の販売について
(1) 販売方法
・バラ販売(t当り)
価格 5,200円
堆肥運搬料 1,000円
堆肥散布料 1,000円
散布は「機会銀行」が農家等

から受注して作業
・袋詰め
『たいひくん』の品名で「JA土佐れいほく」が販売する。
4 kg: 12 L入り158円
13 kg: 40 L入り298円
(2) 主な販売先
町内の農家(水稲、露地、施設野菜)
4 資源循環 環境保全型農業の取り組みについて
堆肥センターの堆肥の率先利用により、土づくりを行い、安全で安心・おいしい農作物の生産を促進させ、付加価値をつけて他の農作物との差別化を図る。
「特別栽培米」
良食味米である「ヒノヒカリ」に牛糞堆肥などの有機物等を利用して栽培した米を「JA土佐れいほく」では特別栽培米として通常米より30キ口当たり千円の高値で買い取り。

【視察調査を終えての所感】
土佐町は、れいほく材の産地として江戸時代から知られる木材の町であるが、林家の高齢化、後継者不足や輸入材の流通等により、平成17年から林業後継者の育成及び若者定住対策として、林業担い手対策事業を実施し、5年間で12名を雇用し、若者の定住に繋がったことである。
地場材の販売促進のためにれいほくスケルトンという杉材使ったモデル住宅を建設し、若者の定住促進をはかり、さらに公営住宅や学校、来年度の役場庁舎の建て替えにも地元木材を使ったり、林業を基幹産業とする町だけにその取り組みは素晴らしいものがある。
山林の形態、材種は土佐町とは全く異なるが、佐呂間町でも地場材の活用、担い手対策、山林の管理等、わが町でもできる限りの林業支援を考えなくてはならないと感じた。
堆肥センターは、ハザカ式プラントという方式で、発酵菌は一切なしで25日間で完熟堆肥ができること。
バラ売りの堆肥をトン当たり7,250円で散布している一方で、散布面積は全体で35ヘクタールとなっている。
堆肥センターで作られた堆肥を入れた水田からは特別栽培米として30キ口当たり千円の差額買取で付加価値をつ

け、他の農産物と差別化を図るなど、堆肥センターの堆肥や減農薬の利用により、ISO14001の認証も取得する等、資源循環型、環境保全型の農業の取り組みを行っている。
このハザカ式プラントという方式は宮城県の県南衛生工業の葉坂社長が考えたもので、国内にも何箇所かハザカ式はあるそうだが、その土地の気候、風土も堆肥の発酵に影響するとのこと、佐呂間町にもこの方式による運用が可能かどうかは、さらなる研究、検証が必要かと思われる。



スケルトンのモデル住宅

議会ニュース

・道外行政調査
視察研修報告

道外行政調査・視察研修報告②

徳島県上勝

◎彩り事業について

1. 事業の概要

昭和56年にマイナス13度の寒波で町の特産物のミカンの木が全滅し、町の経済活動が衰退した。

そこで、地域の資源活用を考え、紅葉、柿、南天等の「葉っぱ」を料理の「つまもの」として売るアイデアを思いつき、様々な困難を乗り越え「葉っぱビジネス」へと成長した。運営は第3セクター方式で、販売額は年間3億円になる。

2. 事業の特徴と効果

・生産者は女性や高齢者が主体で平均年齢70歳、最高齢は98歳で194人が参加し、年収が1千万円を超え納税している人もいる。

・事業は高齢者福祉産業として位置付けられ、元気な老人が増え、元気な町へ変化。その結果、老人医療費は県内で最

も少なく、全国平均より20万円少ない。

・農家、農協、俵いりどりの3者が一体となって運営しており、町の防災行政無線を活用したFAX送信システムの利用、高齢でもパソコンが簡単に操作できるように改良したパソコンを導入した。

・毎日売れ筋商品の種類などを確認し市場の情報を提供し、FAXで各農家へ一斉に注文情報を発信し、農家はこの情報をもとに受注の判断を農協に回答している。(受注の権利は電話による早いもの勝ちとしている。)

・出荷内容や販売額は、生産者にデータで送付され、競争意識が生まれる。

・当初は全く売れず、職員が料亭に通い「つまもの」の価値を見出す努力をし、販売網を開拓し生産・出荷を可能とした。

3. 所感

上勝町の「葉っぱビジネス」の成功は、町の活性化だけでなく、高齢者に働く喜び、生きがいを与えた、先進的な事例

であり、海外、全国各地から視察者が訪れている。

今後の課題としては、事業開始以来20数年が経過し、試行錯誤の積み重ねそして販路の拡大などを含めてここまで「つまもの」を全国の80%台を維持してきたが、この事業がそのまま維持できるかどうか懸念されるところである。

しかし、高齢者が健康で担い手として社会参加し易い環境づくり、地域資源を生かした活用は今後見習うことも必要であると認識するところである。

◎ゼロ・ウェイスト政策について

1. ゴミゼロの概要

・上勝町は、平成15年9月に「ゼロ・ウェイスト宣言」を行った。

「ゼロ・ウェイスト」とは、無駄、浪費、ゴミをなくす意味で、リサイクル、リユースを進め、ゴミをなくしていくという理念である。

・この理念の下に、2020年までにゴミをゼロに近づけるということで、主旨は、消費者が不用となった物は、製造・販売・消費の流れの逆のルートで製造者に消費者から有価で回収するデポジット方式の採用を目指すものであり、国へ法制化するよう要望もしている。

・町のゴミ収集はせず、住民が町内で1箇所の日比ヶ谷ゴミステーションに運び34種類に分別されたカゴに入れていく。

・以前はごみ焼却をしていたが、ダイオキシン規制により焼却を止め、平成13年より分



株式会社「いりどり」にて説明を受ける

議会ニュース

・道外行政調査
視察研修報告

上勝町
(徳島県勝浦郡)
人口1,956人
平成22年10月末
面積109.68 km²

2. 事業の特徴と効果
・日比ヶ谷ゴミステーションの運営は、町から委託されているNPO法人ゼロ・ウェイストアカデミーが運営し、ここには、リユースを進める「くるくるショップ」と「くるくる



日比ヶ谷ごみステーション

別処理をしている。行政や住民がゴミに関心が高かったわけではないが、未来の子ども達にきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するために取り組むこととし住民の支持を得た。

工房」の2施設が併設されており、こちらの運営もおこなっている。
「くるくるショップ」は衣類、食器、雑貨などの不用品を町民が自由に持ち込み、陳列ができ、欲しいものについては無料で持ち帰れる。
「くるくる工房」は、衣類、布類、布団を打ち直した綿などを使って、町内の女性たちが新たな商品を製作、販売している。
・ゴミステーションに來れない高齢者には、ボランティア組織が運搬を無償で行っている。
・新たな取り組みとして、緑の分権改革事業で養豚農家が排出する糞尿をメタンガスとして利用する取り組みを試験的に実施しており、今後、実用化を考え実証中の段階となっています。

3. 所感
町内のゴミステーション1ヶ所に町民が持ち込むことは、小さい町だからできるといふ利点があるが、これを他の町で取り入れることは難しいと思われる。
佐呂間町では、町内に点在するゴミステーションの状況

を考えると物理的に難しいが、上勝町のように町を挙げての環境問題を提起し取り組んだことは評価すべきものと考えられる。

◎廃校舎利用について
・用途：U・イターンのための賃貸事務所及び町営住宅
・廃校理由：過疎化による人口減少及び地区の児童数減少
・廃校年 平成11年
旧学校名 福原小学校
RC造り3階建

1,328㎡
改修財源 地域総合整備事業費債、県単独補助
1. 概要と特徴
旧福原小学校は、イターン、Uターン希望者のための住宅と貸事務所として有効活用するために整備。
現在、第3セクターの事務所2社と、その従業員用の住宅が8戸全て入居。
建物の内装材の一部は地元木材の使用と、天井は牛乳パックを再利用した製品を使用、オール電化システムで、排水は川に放流せず、バクテリアによる汚水、雑排水システムで処理をしている。

単身世帯用 2万5千円
家族用 3万5千円
事務所用 5万円
2. 所感
次代を担う若者の定住を重点課題として、人づくり、若者定住、住環境の整備を進めるために、I・Uターン希望者の受け入れとして整備をして廃校舎利用がされおりますが、今後さらにI・Uターン者が増えた場合、新たな住宅の確保が可能なものか心配される場所です。

過疎化と少子化による学校の統廃合で閉校となった学校施設をどう活用するか大きな課題であるが、こうした活用方法等、全国各地の活用事例を参考に活用されることを期待するものです。

廃校舎を活用した複合住宅

住宅使用料



廃校舎を活用した複合住宅

議会ニュース

・ 常任委員会現地調査

**常任委員会で
現地調査を実施**

**総務福祉
常任委員会**

12月1日、総務福祉常任委員会終了後、現地調査を実施しました。

現地調査箇所

- ・ ふれあいバス及びバスターミナル
- ・ 特別養護老人ホーム「愛の園」
- ・ 若佐歯科診療所
- ・ 辺地共聴施設

(トカロチテレビ組合)

平成22年度予算にかかる事業執行状況を主眼に現地調査を実施し、いずれの施設も計画通りに工事が実施され利便性に配慮がなされていると確認したところです。

厳しい財政状況の中、それぞれ優先度を勘案しながら計画的な事業が実施されていますが、今後は施設の良好な状態を維持し、適切な修繕により、経費の縮減に努めることが必要かと思われま



ふれあいバスが並ぶ車庫



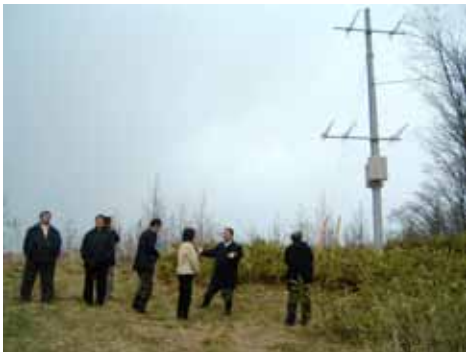
改修されたバスターミナル



内装も改修された歯科診療所



移転となった若佐歯科診療所



地デジ化されたトカロチのTV中継局



10床増床となった特養

議会ニュース

・ 常任委員会現地調査

産業文教 常任委員会

12月2日、産業文教常任委員会終了後、現地調査を実施しました。

現地調査箇所

- ・ 総合体育館
- ・ 地場産品開発研究センター
- ・ 佐呂間小学校（駐車場）
- ・ 悠林館
- ・ 佐呂間高校裏通り道路
- ・ 除雪機械購入事業

平成22年度予算にかかる事業執行状況を主眼に調査をしないずれの施設も計画通りに実施されておりました。



舗装となった
佐呂間高校裏通り道路



スロープが設置された
町総合体育館



身障者トイレが設置された
町総合体育館



舗装となり使いやすくなった
佐呂間小学校駐車場



新規購入した除雪ドーザ



木部塗装を行なった悠林館



地場産品開発研究センター

「請願と陳情について」

請願・陳情は国、道、町政に住民の皆さんの意見や要望を反映させる一つの方法で、個人、団体を問わず誰でも提出することができます。

《 記 載 例 》

(表紙)

(本文)

に関する

請 願 書
(陳 情 書)

紹介議員 印

に関する請願 (陳情)

要旨

理由

平成 年 月 日

佐呂間町議会
議長 殿

佐呂間町字 町 番地 印

陳情書の場合、紹介議員は不要です。

議会を傍聴してみませんか!!

第1回定例会は3月に開催されます

詳しくは議会事務局にお尋ねください



平成23年2月発行

よとがき

「あきあじ(シロサケ)」

カムイチエブ(神の魚)が今年も豊漁で港は活気にあふれ、漁夫は日焼けした顔の白い歯がやけに眩しかった。

アイヌ人は太古のころから神に感謝を心に込めて捕獲をしたという。北国の冬の大事な保存食でもあった。

私たち家族にも子供の頃から大好きなおいしい食べ物のひとつであった。

食文化の発達とともに若い人たちの味覚の変化にはびっくりさせられる。料理方法のレパートリーが広がったこともあるのだろう。

新巻は、冷蔵庫の普及により、あきあじにひと塩をして即冷凍庫に入れる方法の新巻がもてはやされてきた。

都会の人は、すぐ冷凍庫に入れ凍結する新巻の身の厚い箇所は塩がなじまないの刺身にして食べて腹を壊したと

聞き驚いたことがあった。

私の子供の頃は、新巻はあきあじの頭の中と腹の中そして鱗に対して逆方向に粗塩をまぶし、あきあじを積み重ねて7日から10日ほど塩をなじませ保存をする山漬け方法だった。

塩の効力でうまみを引き出したあきあじである。食べる時に塩分を水につけて抜き、「塩あんばい」をして食べたものだ。今思うと随分大事に手間をかけて大切に扱っていた。

最近山漬け方法が、おいしいと人気を呼び復活をしてきた。あきあじを口にする時、かつてアイヌの人々がカムイチエブと呼んで食への感謝をし、食するために自然環境を大事にしたように、今、山は川は、そして食の安心安全はとつぶやく…老人の独り言である。

じじのつぶやきより

(安田一彦)